

「我が懐かしき歌」補遺 12 2018/8/10(金)

「おもいでアルバム」は幼稚園児の卒園式の曲。全7番からなり、2番から6番は春・夏・秋・冬の各季節での出来事を歌っている。1959年に『増子とし全集』(フレーベル館)で発表。1981年に「みんなのうた」で紹介された。歌はダーク・ダックス。

『おもいでアルバム』

作詞: 増子とし 作曲: 本多鉄磨

いつのことだか 思(おも)いだしてごらん  
あんなことこんなこと あったでしょう  
うれしかったこと おもしろかったこと  
いつになっても わすれない

春(はる)のことです 思(おも)いだしてごらん  
あんなことこんなこと あったでしょう  
ぽかぽかおにわで なかよく遊(あそ)んだ  
きれいな花も 咲(さ)いていた

夏(なつ)のことです 思(おも)いだしてごらん  
あんなことこんなこと あったでしょう  
むぎわらぼうしで みんなはだかんぼ  
おふねも見たよ 砂山(すなやま)も

秋(あき)のことです 思(おも)いだしてごらん  
あんなことこんなこと あったでしょう  
どんぐり山の ハイキング ラララ  
赤(あか)い葉(は)っぱも とんでいた

冬(ふゆ)のことです 思(おも)いだしてごらん  
あんなことこんなこと あったでしょう

もみの木かざって メリークリスマス  
サンタのおじいさん 笑(わら)ってた  
冬のことです 思いだしてごらん  
あんなことこんなこと あったでしょう  
寒(さむ)い雪(ゆき)の日に あったかい部屋(へや)で  
たのしいはなし ききました

一年じゅうを 思いだしてごらん  
あんなことこんなこと あったでしょう  
桃(もも)のお花も きれいに咲いて  
もうすぐみんなは 一年生(いちねんせい)

---

「我が懐かしき歌」補遺 11 2018/8/2(木)

「お山のお猿」は大正8年(1919年)7月作詞、同年9月作曲の童謡。

### 『お山のお猿』

作詞: 鹿島鳴秋 作曲: 弘田龍太郎

(一)

お山のお猿は まりがすき  
とんとんまりつきや おどりだす  
ほんにお猿は どうけもの

(二)

あかいべきて かささして  
おしゃれ猿さん まりつけば  
お山の月が わらうだろ

---

「我が懐かしき歌」補遺 10 2018/7/25(水)

童謡「夕日」。作詞の葛原しげるは広島の人。小川久志さんによれば、これはにこピン先生こと、葛原しげるの故郷の神辺の夕日とのこと。

『夕日』(ぎんぎんぎらぎら夕日が沈む)

作詞: 葛原しげる 作曲: 室崎琴月

ぎんぎんぎらぎら 夕日が沈む  
ぎんぎんぎらぎら 日が沈む  
まっかっかっか 空の雲  
みんなのお顔も まっかっか  
ぎんぎんぎらぎら 日が沈む

ぎんぎんぎらぎら 夕日が沈む  
ぎんぎんぎらぎら 日が沈む  
カラスよ お日を追っかけて  
真っ赤に染まって 舞って来い  
ぎんぎんぎらぎら 日が沈む

---

「我が懐かしき歌」補遺 9 2018/7/23(月)

8ヶ月の孫が母親の真似をして「ぶんぶんぶんぶん」などと口で音を出しているのを聴いて「ぶんぶんぶん 蜂が飛ぶ」を思い出しました。

『ぶんぶんぶん』

作詞: 村野四郎 作曲: ボヘミア民謡

※ぶんぶんぶん はちがとぶ  
おいけのまわりに  
のばらが さいたよ  
ぶんぶんぶん はちがとぶ※

△ぶんぶんぶん はちがとぶ  
あさつゆ きらきら  
のばらが ゆれるよ  
ぶんぶんぶん はちがとぶ△

(※くり返し)

(△くり返し)

(※くり返し)まま

(△くり返し)

(※くり返し)

歌詞(ドイツ語)・日本語訳(意訳)

1.

Summ, summ, summ!

Bienchen summ herum!

Ei, wir tun dir nichts zu leide,

Flieg nur aus in Wald und Heide!

Summ, summ, summ!

Bienchen summ herum!

ぶんぶんぶん

ハチよこっちに飛んでこい

困らせたりしないから

森や野原で飛ぶがいい

ぶんぶんぶん

ハチよこっちに飛んでこい

2.

Summ, summ, summ!

Bienchen summ herum!

Such in Blüten, such in Blümchen  
Dir ein Tröpfchen, dir ein Krümchen  
Summ, summ, summ!  
Bienchen summ herum!

ぶんぶんぶん  
ハチよこっちに飛んでこい  
お花畑でミツや花粉を探しなよ  
ぶんぶんぶん  
ハチよこっちに飛んでこい

3.  
Summ, summ, summ!  
Bienchen summ herum!  
Kehre heim mit reicher Habe,  
Bau uns manche volle Wabe,  
Summ, summ, summ!  
Bienchen summ herum!

ぶんぶんぶん  
ハチよこっちに飛んでこい  
宝物を持ちかえって  
たくさん巣作りはげむんだ  
ぶんぶんぶん  
ハチよこっちに飛んでこい

---

「我が懐かしき歌」補遺 8      2018/7/20(金)

「鎌倉」明治 43 年(1910)『尋常小学読本唱歌』に登場。作詩・作曲者不詳。『尋常小学校読本』の編纂者の国文学者芳賀矢一の作詩ではないかという説もあるが、確証はないそうです。

小学校(鎌倉市立第二小学校)3-4 年の頃、時々遊びに来てくれた K 瑞枝さんが当家の足踏みオルガンでよくシンプルだけれども美しい伴奏で「鎌倉」を奏でていました。K さんに教えてもらったのだと思いますが、楽譜に書いたとは思えないので、真似して弾きながら覚えたんだと思います。今でも弾けます(多分)。ちなみに、当時、私は鎌倉の同じ浄明寺に住んでおられたスタブリナキさんと言われる白系ロシア人の方の家に通ってピアノを習っていました。

『鎌倉』

作詩・作曲者不詳

1. 七里ガ浜のいそ伝い、  
稲村ヶ崎、名将の  
剣投ぜし古戦場。
  
2. 極楽寺坂越え行けば、  
長谷観音の堂近く  
露坐の大仏おわします。
  
3. 由井の浜べを右に見て  
雪の下村過行けば、  
八幡宮の御社。
  
4. 上るや石のきざはしの  
左に高さ大銀杏、  
問わばや、遠き世々の跡。
  
5. 若宮堂の舞の袖  
しずのおだまきくりかえし  
返せし人をしのびつつ。
  
6. 鎌倉宮にもうでは、  
尽きせぬ親王のみうらみに  
悲憤の涙わきぬべし。
  
7. 歴史は長き七百年、  
興亡すべてゆめに似て、  
英雄墓はこけ蒸しぬ。

8. 建長円覚古寺の  
山門高き松風に、  
昔の音やこもるらん。

---

我が懐かしき歌 補遺 7      2018/7/18(水)

アントニン・ドヴォルザークは 1892 年にアメリカに招かれ、95 年までの4年間、ニューヨークの国民音楽院の院長として滞在しました。渡米の翌年 1893 年に作曲されたのが『交響曲第9番-新世界より』です。1922 年、ドヴォルザークの弟子のウィリアム・A・フィッシャーが第 2 楽章のメロディーに詩をつけ、『Goin' Home(帰郷)』という題の歌曲を発表しました。(参考: 二木紘三の歌物語)

『遠き山に日は落ちて』新世界より

作曲: アントニン・ドヴォルザーク

作詞: 堀内敬三

1 遠き山に 日は落ちて

星は空を ちりばめぬ

きょうのわざを なし終えて

心軽く 安らえば

風は涼し この夕べ

いざや 楽しき まどいせん

まどいせん

2 やみに燃えし かがり火は

炎今は 鎮(しず)まりて

眠れ安く いこえよと

さそうごとく 消えゆけば

安き御手(みて)に 守られて  
いざや 楽しき 夢を見ん  
夢を見ん

『家路』

作詞:野上 彰

1 響きわたる 鐘の音に  
小屋に帰る 羊たち  
夕日落ちた ふるさとの  
道に立てば なつかしく  
ひとつひとつ 思い出の  
草よ 花よ 過ぎし日よ  
過ぎし日よ

2 やがて夜の 訪れに  
星のかけも 見えそめた  
草の露に ぬれながら  
つえをついて 辿るのは  
年を老いて 待ちわびる  
森の中の 母の家  
母の家

『Goin' Home』

作詞: W. A. Fisher

Goin' home, goin' home,  
I'm a-goin' home,  
Quiet like some still day,  
I'm jes' goin' home.



It's not far, jes' close by,  
Through an open door,  
Work all done, care laid by,  
Gwine to fear no more.

Mother's there 'spectin' me,  
Father's waitin' too,  
Lot's o' folk gathered there,  
All the friends I knew.

Home, home, I'm goin' home.  
Nothin' lost, all's gain.  
No more stumblin' on the way,  
No more longin' for the day,  
Gwine to roam no more.

Mornin' star lights the way,  
Res'less dreams all done, all done,  
Shadow's gone, break o' day,  
Real life's jes' begun.

Dere's no break, ain't no end,  
Jes' a-livin' on,  
Wide awake with a smile,  
Goin' on and on.

Goin' home, goin' home,  
I'm jes goin' home,  
It's not far, Jes' close by,  
Through an open door,  
I'm jes' goin' home.

---



我が懐かしき歌 補遺 6 2018/7/10(火)

『冬景色(ふゆげしき)』は、大正2年(1913)『尋常小学唱歌 第五学年用』が初出の文部省唱歌。平成19年(2007)に「日本の歌百選」に選ばれた。

『冬景色』

作詞・作曲 不詳

さ霧消ゆる 湊江(みなとえ)の  
舟に白し 朝の霜  
ただ水鳥の 声はして  
いまだ覚めず 岸の家

鳥(からす)啼(な)きて 木に高く  
人は畑(はた)に 麦を踏む  
げに小春日の のどけしや  
かへり咲(ざき)の 花も見ゆ

嵐吹きて 雲は落ち  
時雨(しぐれ)降りて 日は暮れぬ  
若(も)し灯火(ともしび)の 漏れ来(こ)ずば  
それと分かじ 野辺(のべ)の里

我が懐かしき歌 補遺 5 2018/6/10(日)

川端裕人著「我々はなぜ我々だけなのか」(ブルーバックス)を読んでいたら、ジャワ島の町ソロが出て来て、この町を流れる川、即ちブンガワンソロがジャワ原人の発掘地のひとつであること、自

分が覚えていた「ブンガワンソロ」はこの地方の民謡であること、そして 1951 年の市川崑監督の作品『ブンガワンソロ』は、太平洋戦争終結前夜のインドネシア・ジャワ島を舞台にした日本軍の脱走兵と彼に恋心を抱く村の娘の悲恋の物語だったことを初めて知りました。インドネシア民謡、ブンガワンソロ。美空ひばり、ダークダックスが歌っています。

### 『ブンガワンソロ』

作詞:Gesang 作曲:Gesang

ブンガワン ソロ 果しなき  
清き流れに 今日も祈らん  
ブンガワン ソロ 夢多き  
幸の日たたえ 共に歌わん

※聖なる河よ わが心の母.....  
祈りの歌のせ 流れ絶えず  
花は咲き 花は散れど  
愛の誓いは とわに変わらじ.....※  
(※くり返し)

我が懐かしき歌 補遺 4 2018/5/3(木)

ふと思い出した歌の声は藤山一郎さん。

### 『丘を越えて』

作詞:島田芳文 作曲:古賀政男

丘を越えて 行こうよ  
真澄の空は 朗らかに晴れて  
楽しい心 鳴るは胸の血潮よ

讃えよ わが青春(はる)を  
いざ行け 遥か希望の 丘を越えて

丘を越えて 行こうよ  
小春の空は 麗かに澄みて  
嬉しい心 湧くは胸の泉よ  
讃えよ わが青春を  
いざ聞け 遠く希望の 鐘は鳴るよ

---

我が懐かしき歌 補遺 3     2018/4/13(金) ·

歌人・北見志保子が詠んだ2首に、平井康三郎が昭和 10 年(1935)に曲をつけたということで  
す。「つま」は自分の夫のことなのですね。その昔、学生時代、よく家でピアノで弾き歌いの真似を  
やっていました。意味も深く考えずになにやら胸きゅんで。。。 (参考、二木紘三のうた物語)

### 『平城山』

作詞: 北見志保子、作曲: 平井康三郎

- 1 人恋ふは悲しきものと  
平城山(ならやま)に  
もとほり来つつ  
たえ難(がた)かりき
  
- 2 古(いにし)へも夫(つま)に恋ひつつ  
越へしとふ  
平城山の路に  
涙おとしぬ

---

我が懐かしき歌 補遺 2     2018/3/31(土)・

「花嫁人形」。作詞の落谷虹児(ふきやこうじ)は詩人・画家。新潟県新発田市に落谷虹児記念館があります。展示場はとても響きのよいホールで、一度、このホールで開かれた「風のセミナリオ」の演奏会でフルートを吹いたことがありました。作曲の杉山長谷夫はヴァイオリニスト・作曲家。大正 12 年(1923)発表。

『花嫁人形』

作詞:落谷 虹児 作曲:杉山 長谷夫

金らんどんすの 帯しめながら  
花嫁御寮は なぜ泣くのだろ

文金島田に 髪結いながら  
花嫁御寮は なぜ泣くのだろ

あねさんごっこの 花嫁人形は  
赤いかのこの 振袖着てる

泣けばかのこの たもとがきれる  
涙でかのこの 赤い紅にじむ

泣くに泣かれぬ 花嫁人形は  
赤いかのこの 千代紙衣装

我が懐かしき歌 補遺 1     2018/3/1(木)・

朝起きたらなにやらこんな歌が頭に浮かんできました。

『あの町この町』

野口雨情作詞、中山晋平作曲

あの町 この町

日が暮れる 日が暮れる

今きたこの道

かえりゃんせ かえりゃんせ

お家(うち)がだんだん

遠くなる 遠くなる

今きたこの道

かえりゃんせ かえりゃんせ

お空に夕(ゆうべ)の

星が出る 星が出る

今きたこの道

かえりゃんせ かえりゃんせ

---

2018年2月5日・

「我が懐かしき」歌のシリーズは(最初はこんなに続けられると思っていませんでしたが) 今年の2月18日から始めてほぼ1年になり、歌の総数は189曲となりました。しかし、そろそろネタも尽きてきましたので、一旦こちら辺で閉じさせて頂きます。投稿した歌は全てメロディーは知っていたものばかりですが、1曲だけ知らなかったものを入れました。8/6掲載の佐々木祐滋作曲「祈り」です。広島原爆の日になんで、佐々木禎子、折り鶴で検索したら、この歌が出てきました。作曲者が禎子さんの甥御さんというのも何か繋がりを感しました。

途中から、少し歌について調べ始めたら、これが思いの外面白く、はまってしまいました。毎回見てくださった方、コメント下さった方々、ありがとうございました。今日の歌は新しいものですが、1年365日近く経ったという意味も込めて、「365日の紙飛行機」(190曲目):

(歌の題名のリストを作ったので、後ほど載せます。)

『365 日の紙飛行機』

作詞: 秋元康 作曲: 角野寿和/青葉紘季

朝の空を見上げて  
今日という一日が  
笑顔でいられるように  
そっとお願いした

時には雨も降って  
涙も溢れるけど  
思い通りにならない日は  
明日 頑張ろう

ずっと見てる夢は  
私がもう一人いて  
やりたいこと 好きなように  
自由にできる夢

人生は紙飛行機  
願い乗せて飛んで行くよ  
風の中を力の限り  
ただ進むだけ  
その距離を競うより  
どう飛んだか どこを飛んだのか  
それが一番 大切なんだ  
さあ 心のままに  
365 日

星はいくつ見えるか  
何も見えない夜か  
元気が出ない そんな時は  
誰かと話そう

人は思うよりも  
一人ぼっちじゃないんだ  
すぐそばのやさしさに  
気づかずにいるだけ

人生は紙飛行機  
愛を乗せて飛んでいるよ  
自信持って広げる羽根を



みんなが見上げる  
折り方を知らなくても  
いつのまにか飛ばせるようになる  
それが希望 推進力だ  
ああ 楽しくやろう  
365 日

人生は紙飛行機  
願い乗せて飛んで行くよ  
風の中を力の限り  
ただ進むだけ  
その距離を競うより  
どう飛んだか どこを飛んだのか  
それが一番 大切なんだ  
さあ 心のままに  
365 日

飛んで行け!  
飛んでみよう!  
飛んで行け!  
飛んでみよう!  
飛んで行け!  
飛んでみよう!

[19 酒井 しょうこ、笠井 潔、他 17 人](#)